

数年前から、いろいろなモフモフした動物が出ている動画を見るのにハマっています。  
最近、猫と犬はもちろん、ハムスターやひよこなんかも一緒に暮らしている様子が動画になっていたりして…  
驚くと同時に、たくさんのモフモフを見られて、癒やされ、幸せな気持ちで動画を見ています。

いつも見ている動画では、猫も犬も他の動物たちも本当に仲がよくて、  
どれくらいお互いのことを理解しているのか、他の生き物と言葉は通じているのか、不思議な気持ちになります。  
人間も他の生き物とはもちろん話すことはできませんが、昔飼っていた犬は、ときどきびっくりするほど  
こちらの言っていることを理解していることがあったな、ということ思い出しました。

今月の本は、ある1匹の犬の言葉だけが理解できるようになった猫と、  
その犬と猫を飼っている女の子のお話『かのこちゃんとマドレーヌ夫人』(万城目学著 角川文庫 2013年)です。

この物語の世界では、猫は猫と話することができますが、猫以外の生き物と話することはできません。  
けれどマドレーヌ夫人は、犬の玄三郎<sup>げんざぶろう</sup>とだけは話することができるので、猫たちの中では“マドレーヌ夫人は外国語を話せる猫”  
ということになっています。

そして、このアカトラの猫のマドレーヌ夫人と、柴犬の玄三郎<sup>げんざぶろう</sup>を飼っているのが、かのこちゃんのお家です。  
かのこちゃんは小学1年生の女の子で、お父さんの言う「知恵が啓<sup>ひら</sup>かれて」以来、  
いろいろなまだ知らない言葉を教えてくれるようせがむようになりました。

かのこちゃんは、難しい言葉でかつ変な響き<sup>ひび</sup>を持つ言葉が好きです。  
「やおら」とか「とかく」は好きな言葉で、「すこぶる」とか「やにわに」は嫌いな言葉。  
お父さんは「わからないなあ」と笑いますが、かのこちゃんにとっては、好きな言葉と嫌いな言葉は「全然、感じがちがう」んです。

そんなかのこちゃんは、「本当はわたしの言葉、わかるでしょ？」と、マドレーヌと玄三郎の耳をつまんで何度も吹き込むことを  
密<sup>ひそ</sup>かな日課にしていたり、クラスの男子と“どちらが難しい言葉を知っているか勝負”をしたりします。  
「いかんせん」「ほとほと」「たまさか」…いろいろな言葉が飛び交います。

「言葉を知ると、新たな世界が照らし出される。」(p.37)

言葉を学んでいる途中<sup>とちゅう</sup>のかのこちゃんの物語を読みながら、普段使っていない、いろいろな日本語があることが思い出されました。

言葉が通じても友だちとうまく向き合えなかったり、言葉が通じたからこそマドレーヌ夫人にできたことがあったり…  
“言葉が通じる”ことについて思いを巡らせ、通じても通じなかったとしても相手のことを想って動こうと思える素敵な物語です。

少し前から、猫が何を言っているか教えてくれる”にゃんトーク”なるアプリが話題ですが、  
いつか犬や猫が言っていることも完璧<sup>かんぺき</sup>に翻訳<sup>ほんやく</sup>される日が来るのでしょうか。

動画のモフモフな動物たちや、マドレーヌ夫人と玄三郎<sup>げんざぶろう</sup>が種<sup>しゆ</sup>を超えて仲よくしているように、  
人間も国や言葉、そのほかいろいろなことが違っても、仲よくできたらいいのと思います。

